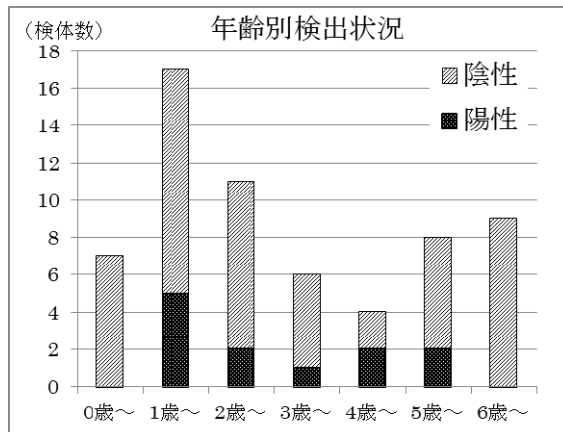
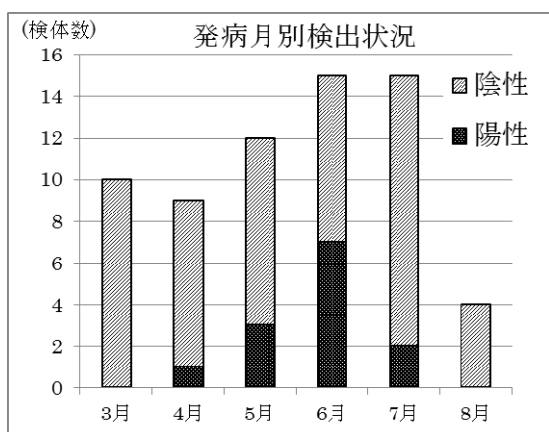


～ヒトパレコウイルス3型の流行について～

ヒトパレコウイルス(HPeV)は、主に小児の胃腸炎や呼吸器疾患患者から検出されるウイルスで、ピコルナウイルス科パレコウイルス属に分類されます。元々は、同科エンテロウイルス属のエコーウイルス22型・23型とされていましたが、ウイルス学的特徴から、1999年にパレコウイルス属として独立し、それぞれ HPeV1 型・2 型と命名されました。その後、2004年に3型が愛知県で、2007年には6型が新潟県で見つかるなど、今では多くの血清型/遺伝子型が報告されていますが、我が国では、1型と3型の感染例が多く、1型は胃腸炎患者から、3型は呼吸器疾患患者から多く検出される傾向があるとされています¹⁾。

奈良県では、感染症発生動向調査の病原体検査として、今年度から HPeV の検査を開始しました。まずは昨年度の検体のうち、これまでの検査で陰性と判定した検体について検査を実施し、流行状況の把握に努めているところです。

今年度に入り、HPeV 3 型の流行が報告²⁾³⁾されたことから、本県でも今年度初めから8月20日までに受け付けた検体のうち、これまでの検査で陰性と判定した検体(65検体:咽頭ぬぐい液44、便18、髄液3)について、検査を実施しました。



65検体中、HPeVを検出したのは、咽頭12、便1の13検体(うち1は年齢不明)で、全て HPeV 3 型でした。

発病月別に見ると、陽性検出率が高いのは6月で、年齢別に見ると検出率としては4歳代が最も高く、0歳代及び6歳以上は検出がありませんでした。全国では0歳代からの検出数が最も多く、全国とは少し異なる結果となりました。なお、性別・地域的な偏りは見られませんでした。

また、HPeV を検出した患者の診断名は手足口病 5*、ヘルパンギーナ 4*(*重複有り)、インフルエンザ様疾患 1、発疹症 5となっています。これらで発疹について特記されているものが9あり、手足を中心に全身に広がる紅疹・丘疹とされていました。大阪府でも、エンテロウイルス感染症疑い患者からのパレコウイルス検出の増加が報告⁴⁾されており、本県でも同様の傾向が見られました。

HPeV は、年によって1型と3型のどちらかが中心に流行しているようで、2011年には3型が、2012年、2013年には1型が多く検出されているようです⁵⁾。

今後は、昨年度までの流行状況を把握するとともに、下水からの HPeV の検出も試みるなど、県内の流行状況の把握・予測に努めていきたいと考えています。



- 1)伊藤雅、他:ヒトパレコウイルス(Human parechovirus:HPeV)感染症、[モダンメディア](#)、53巻、12号、2007
- 2)相澤悠太、他:新潟県におけるヒトパレコウイルス3型感染症の患者報告の急増、[IASR](#) 32:220,2014
- 3)宮田一平、他:生後3か月未満の乳児におけるヒトパレコウイルス感染症の発生、[IASR](#) 32:221,2014
- 4)中田恵子、他:エンテロウイルス感染症疑い患者からのパレコウイルス検出の増加—大阪府—、[IASR](#) 32:221-222,2014
- 5)パレコウイルス検出状況、分離・検出年齢、2010～2014年、[IASR](#)

(ウイルス・疫学情報担当)